



介護の現場で 描いた理想を 起業し実現、その先へ

濱田 美香子 さん
(青森市)

Profile

平内町出身。介護施設に20年ほど勤めたのち、39歳で起業。有料老人ホーム「アビイ」の運営を始める。さらに2015年、全国初の取り組みである「企業賛同型」託児所をオープン。現在は商品開発の取り組みも進めている。

「幸せに暮らしてほしい」 手掛けた施設で思いを表現

学校を卒業したのち、特別養護老人ホームに就職した濱田さん。「お年寄りが好きで」と選んだ道でした。はじめは右も左もわからなかった濱田さんですが、現場に立ち続けるうち、さまざまな面で「こうしたら、もつとよくなるのに」と思うようになったといいます。それは、「お年寄りにもつと幸せに過ごせるような場所を提供したい」という願いでもありました。この願いが、濱田さんの実業家としての原点となります。濱田さんは現場で20年の経験を積むと、自身の思いを表現するため、起業を決意します。起業は39歳のときでした。「衣・食・住それぞれ

にこだわって、どこにもない施設を目指しました。生活者の目線、現場目線で作り上げた施設は、利用を検討する方々の心に響いたのか、内覧会を始めてすぐに、定員いっぱいになったんです。手応えを感じて、翌年「和」をテーマにした別の施設もオープン。20年来的の思いを次々と形にしていきました。「例えば食事。何よりも美味しく食べられることが第一です。月に一度はバイキングで好きなものを食べてもらっているんですよ。食器も使いやすいもの、見た目にも楽しめるものを選んでいきます。細やかな気遣いで、幸せ度が変わるんです」。好みを言えず、シンブルな食器で淡々と食事をするお年寄りを長年みてきて、まず手をかけたいと思った部分だったといいます。このようなソフトの面を重視する濱田さん。利用者や関係者など、人々の心を掴み、事業も軌道に乗っていききました。

働く女性も応援したい 全国初の取り組みに挑戦

濱田さんには、起業したら取り組みたいと思っていたことがもう一つありました。それは、女性の働き方を整えること。女性が多く活躍する介護の現場では特に重要性を感じたといいます。「女性ってだいたい午後3時頃になると、帰ってからの家事や育児のことが頭に浮かび始めるんですね。女性が家庭と両立させて働くのって、ものすごく大変なことなんだと」。そのうえ低賃金の場合が多いので、子どもを預けるにも、保育料もままならない人が少なくありません。「頑張って働きたがらもうまく両立できない女性たちをなんとかしたいと思うようになりました。低料金で、かつ安心して子どもを預けられる場所があったらいいなと」。そこで2年ほど前に立ち上げたのが、複数企業賛同型託児所「フルーレット」です。

中小企業でも、複数集まり合同で出資者となることで、保育施設と保育士(職員)を共有できます。濱田さんが仲間とともに考案したこのシステムに、

現在、病院や福祉施設などの7社が賛同・出資しています。「女性の職場の復帰率に貢献できること、企業の人材不足を解消できることなどが期待できます。前例のない取り組みで、初めはどうなるか不安もあったのですが、すぐに反響がありました。現在は定員いっぱいです」。既存の施設より低い料金設定。契約企業の従業員であれば、一般よりさらに安い保育料で利用することができます。延長、休日、一時預かりなど、さまざまなニーズの受け皿になるうちに、クチコミで利用が広がりました。

思い続けていれば、夢はきっと叶う

20代で持ち続けた思いを次々と形にした今、濱田さんは、「思い続けていれば、夢は叶う」と強く実感しています。「これからのビジョンもまだまだたくさんありますよ。現場あがりの女性の経営者ってなかなかいないと思うんですね。私が行動を続けられれば、同様の事業者が増えて、輝く女性も増えていくのではないのでしょうか。そんな期待も込めて、どんどん事業展開していきたいと思います」。

現在濱田さんは、老人ホーム、託児所と訪問介護事業所、障害福祉サービスなどさまざまな事業所を展開していますが、さらに、フルーレットへの就職支援をする教育部門の創出と子ども食堂の設置に向けても動いています。同時に、デザイン性と利便性を兼ね揃えた介護用品の商品開発や、介護施設の従業員の福利厚生として美容部門の創出も企画するなど、止まらず走り続けます。「自分なりに社会的責任を果たして、女性の味方でいたい。口だけではだめなので行動へ。人から喜ばれることが、私の喜びです。ボランティアではないけれど、その心で。今後女性も福祉で輝きながら活躍できるよう、受け皿を作っていきたいです」。

まわりの人の笑顔が、濱田さんにとって何よりの励みだそう。思いをどんどん形にして、自分らしく生きる姿が印象的でした。